

公益社団法人 三国・芦原・金津青年会議所 2021 年度  
スローガン・基本理念・基本方針・運営方針

2021 年度理事長 浅田 規文

【スローガン】

## 英雄

～自利と利他の調和を胸に～

注：MAK=Mikuni.Awara.Kanazu（三国・芦原・金津）

【基本理念】

●はじめに

私が MAK・JC に入会したのは、父の勧めがきっかけです。家業に戻る頃、私の父は「JC に入って人間が変わった」という話をよくするようになりました。親の敷いたレールに沿って生きてきた私は、JC に入っても自分を変える「きっかけ」があるとは到底思えませんでした。また、「社会貢献」に携わる活動について消極的だった私は、ボランティアを行う団体に積極的に向き合うこともできませんでした。しかし、入会してから 1 年が経った頃、私は当時の理事長から出向を勧められ、委員長になる機会を頂きました。そこから私の人生は大きく変わり始めます。委員長としての役職に真摯に向き合った結果、自分が多くの人々に支えられているという感覚を実感することができました。それは、私自身の「社会貢献」に対する考え方を大きく変える機会となりました。ここで得た経験は、私にとって大きな財産となり、JC や家業に向き合う上で欠かせない信念を形作ってくれたのです。

人は大海に出てこそ視野が広がります。それは、かつてない困難もあれば、様々な出会いがあることでしょう。しかし、その機会は主体的に動ける人間だけが得られる経験なのではないでしょうか。自分を成長させるチャンスは皆平等にありますが、自分で掴みに行かなければ得ることができません。率先して行動できる人間こそ、地域を牽引する英雄（ヒーロー）になれるのです。我々は、「社会貢献」の本質をしっかりと理解するとともに、自己成長に向けた様々な機会を通し、JC に入会してよかったと実感できる 1 年を共に築いて行きましょう！

●スローガンに抱く想い

「英雄（ヒーロー）～自利と利他の調和を胸に～」を今年のスローガンに掲げました。2016 年、私は福井ブロック協議会に出向し、委員長として JC の職務に時間を費やしました。そこで初めて「自利と利他の調和」という言葉に出会いました。振り返ると、自分

の成長の裏には、自分に関わってくれた仲間の支えがあったことに気づかされました。委員長であれ、理事長であれ、自分に関わる全ての人の協力があってこそ自分の職務に専念でき、目的が達成できます。

この感覚を、今年の MAK・JC には 1 年間の運動を通じて是非体感して頂きたい。また、自分に関わる人に心の底から感謝をし、自ら利他の行動をとれる人間になって頂きたい。利他の行動をとれば、必ずその行いが自分に返ってきます。それを自利として捉えると「自利と利他の調和」という考えは、必ず互いに Win-Win の関係を築きます。この信念を胸に、社会に貢献できる人格を備えてこそ、我々は MAK 地域を牽引する英雄になれるのではないのでしょうか。毎年掲げるスローガンこそ、JC が運動を推進する上で最も重要な道標だと私は考えます。

### ●社会貢献の本質を見つめ直す

2020 年、新型コロナウイルスが世界に混乱を巻き起こしました。その影響により、今では「新しい生活様式」が取り入れられ、社会が大きく変わりました。現代の人々は、このような未曾有の危機に直面した際、人間の本質を露にします。それは「自分さえよければいい」といった利己的な考えです。しかし、終戦後、高度成長期に入った日本は、新幹線の開通やオリンピックの誘致を成功させ、日本を立て直しました。はたして、この当時と現在を比べた時、人間が持つ本質は同じと言えるのでしょうか。

「社会貢献」という言葉は実に奥が深いものです。貢献の表し方は様々ですが、MAK・JC は、「社会貢献」の本質を共有できているのでしょうか。運動を起こす前に、まずはその本質を見直す必要があります。また、JC での学びの捉え方は人それぞれですが、私は道徳を学ぶ場だと考えています。「論語と算盤」の著者である渋沢栄一氏も道徳の必要性を唱えています。「道徳×経済」を掛け合わせることが、今の社会に必要なのです。私たちは経済に携わるとともに、道徳を学び、2 つを掛け合わせて社会にインパクトを与えることが真の「社会貢献」と言えるでしょう。知恵・情愛・意思の 3 つを兼ね備え、「良い習慣」を繰り返し、日々積み重ねていくことが JC 運動の本質と捉えます。

現代の利己的な考えから利他的な価値観にマインドを変え、一人ひとり支え合って生きる社会を我々が変えていかなければなりません。我々は「他」を想い、率先して行動し、模範となるべく人格を磨き、「他」に貢献できる団体になるべきなのです。

### ●社会起業家の開発

私たちは、入会して JC の教育を施されます。それを開発と呼びますが、「教育」と「開発」は、「教育＝育てること」、「開発＝新たに能力・技術を実用化すること」という定義で分かります。また、JC は通年、まちづくり、ひとづくりに力を注いできました。近年の JC による事業は、イベントや一過性の企画となってしまう、持続性のないものに変化しています。JC として、取り組む事業が 1 回限りで終わってしまっているのでしょうか。

私はこの体制を改善すべく、新たな JC の開発に踏み出すべきだと考えます。

昨今、社会起業家と呼ばれる人材にスポットが当てられ始めました。社会問題や地域課題をビジネスで解決する起業家のことです。社会問題や地域課題が膨らむ現代、それを解決するために活躍する人材は、もはや JC だけではありません。ビジネスで問題を解決するということは、持続性のある取り組みになります。このことを JC もよく考えるべきなのです。今年は新たに取り組む職務に基づき、MAK・JC 全員を対象に、新たな視点での開発を施す必要があります。

そのためには、まず我々が依存している環境から脱却し、主体的に動き、自立した人格を形成しなければなりません。その後、周囲の人々を巻き込み、皆で協力し合い、目的を達成していく人格を身につけ、常に己を律して磨き続ける習慣を養うことが必要です。JC での学びを「良い習慣」にし、JC が主体的に地域課題に取り組み、社会貢献の本質を捉えた開発が今求められているのです。

### ●これからの JC の取り組み

今までの JC は、単年度制による欠点から目を逸らしてきました。組織が変わり、役職が変わることで個の成長は見られましたが、地域は成長しているのでしょうか。そのことに目を向けた上で、単年度制にとらわれず、自立した事業を展開することが今後の JC に必要な取り組みだと考えます。

まだ日本では馴染みがないですが、「ソーシャルビジネス」という手法が存在します。行政の支援や無償の奉仕活動にのみ依存するのではなく、正当な成果を得て社会的課題を解決する事業です。「ソーシャルビジネス」は、地域社会が本来持っていた人と人との絆や自然と共生する知恵などを再評価し、社会を再構築する試みでもあります。成果を得る経済活動と、理想を実現する社会活動が両立し、競争より共生を求め、人と環境を大切にしながら適正な成果を求める。こういった事業を持続することが、今あらゆるビジネスに求められているのです。この事業が広く普及することで、全ての人が多様な生き方を認め合い、支え合う社会を実現することができるのではないのでしょうか。また、この事業は SDGs にも繋がります。JC は広く、社会をより良くするために事業を展開しなければなりません。持続可能な開発目標に取り組む上で、「ソーシャルビジネス×SDGs」の考え方は切っても切れません。まさに「ソーシャルビジネス」は持続可能な社会に必要なツールだと言えるでしょう。

この取り組みを MAK 地域で広く普及させるためには、まず MAK・JC が率先して事業に取り組み、地域を牽引する必要があります。また、我々が取り組む社会実験の成果を通じ、MAK 地域に大きなインパクトを与えることができます。さらに、幅広い人々がソーシャルビジネスに取り組めば、地域は明るく豊かになり、持続可能な社会が広がります。MAK・JC が率先してこのチャンスを掴み、「サステイナブル×イノベーション」を捉え、新たな道を切り開くことができれば、地域に大きな成果を見出すことになるでしょう。

## ●会員の拡大

JC を運営する上で、欠かせないのがメンバーです。メンバーなくしては会の運営、事業の構築はおろか、50 年間先輩諸兄から受け継いできた MAK・JC を継続させていくことができません。JC は学びの宝庫だと私は考えます。なぜ、皆 JC に入会しないのだろうかと自問自答を繰り返すようになりました。それは、現代の社会が利己的な観点を持っているからではないでしょうか。では、その考え方を逆手に取り、JC はビジネスを展開する団体だと位置付けるのはどうでしょう。ビジネスに取り組む団体だと周知できれば、興味を抱く人は多いのではないのでしょうか。様々なサービスが飽和した環境で、JC が社会貢献を意識した新たなビジネスに取り組み、入会したメンバーが JC でノウハウや考え方を学び、自立することができれば地域に新たな仕事が生まれます。また、このサイクルが持続することで、地域が潤い、魅力が生まれ明るく豊かな社会が築けるのではないのでしょうか。

そのためにも、会員拡大を成功させて多くの仲間とともに MAK 地域を牽引する必要があります。メンバーが増えなければ、地域に与えるインパクトも小さくなってしまい、我々の運動を普及させる上で大きな妨げになってしまいます。今年は新たな取り組みを通し、MAK 地域で活躍できるリーダーを増やしていきたいと考えます。

## ●組織の在り方

組織を理解する上で欠かせないものの 1 つに、「組織成立の 3 要件」というものがあります。1 つ目は「共通目的」で、理念やビジョンといったものが共通目的にあたります。組織をまとめるための旗のような存在だといえるでしょう。2 つ目は、「協働意思」です。貢献意欲とも呼ばれており、組織内で一緒に活動する上で、それぞれが組織の役に立ちたいという想いのことです。またそれに加え、組織に対して貢献をすることで、それぞれがリターンを得ることができるという信頼が協働意思を醸成していきます。3 つ目は、「意思疎通」です。組織内には、多数のメンバーがいて、そのメンバーを束ねる役割を負うリーダーが存在します。メンバー間で問題が頻発する場合は、この意思疎通が不十分であることが原因といえるでしょう。つまり、組織を円滑に運営していくためには、欠かせないことなのです。

この 3 つのポイントを押さえ、「自利と利他の調和」によるマインドを取り入れ、運営に取り組めば強固な組織に生まれ変わるでしょう。それぞれが向き合うべき担いを真摯に受け止め、主体的に動くべきなのです。それが組織内での学びに繋がり、JC のメリットだと考えます。

## ●結びに

人として道徳的な考え方を持つことは、「他」に貢献する上で大切な要件だと考えます。また、基本的な信念をしっかりと持っている、行動や発言にブレがなくなり、信頼を得ら

れます。さらに、道徳的な考えを持ち、しっかりとした意見を述べることであれば、「他」の人々からも信頼されることに繋がります。それは貢献する上で、素晴らしい人間関係を持つことに繋がり、自分の力を何倍も発揮できるようになるからです。また、仕事を始め、何をやるにも社会において自分 1 人で成り立っているわけではありません。逆に 1 人の力など微々たるものです。全ては、様々な協力があって大きな力になるのです。

今年は「自利と利他の調和」を皆胸に刻みましょう。この信念が「心」の中で、しっかり理解でき共鳴、共感できていることが大切です。これを全ての基盤とすることで、2021 年が終わる頃には、きっと皆が成長し、優れた人格を備えた人財に変わることでしょう。そうすれば、MAK 地域を明るく照らす英雄になれるのです。今こそ、MAK・JC が地域に新たなインパクトを生み出す時だ！Wake Up , The HERO！！

### 【基本方針】

- ・自利と利他の調和を意識した会員とのコミュニケーション
- ・自利と利他の精神を育む機会の創出
- ・社会起業家の創出を目指した会員拡大
- ・会員の徹底した情報共有
- ・主体的に考えるマインドへの転換
- ・MAK 地域を牽引する人格形成
- ・「社会貢献」の本質を徹底探究
- ・SDGs×ソーシャルビジネスを意識した事業構築
- ・レスポンスの高い委員会運営
- ・自利と利他の調和に基づく強固な組織運営

### 【運営方針】

- ・会員拡大の実施
- ・拡大実施情報の共有
- ・拡大マネジメントの実施
- ・拡大ツールの企画、開発
- ・社会起業家に向けた全員開発
- ・社会起業家への成長に向けた人格形成の実施
- ・社会起業家として第一歩を踏み出す機会の提供
- ・ソーシャルビジネスに向けた事業環境の分析把握
- ・ソーシャルビジネスに向けた事業戦略の企画、事業計画の策定
- ・ソーシャルビジネスの実施に向けた事業発表会の開催
- ・ソーシャルビジネスの実施
- ・2021 年度 MAK・JC 運動方針、事業説明会の実施

- ・ 総会、例会、理事会の設営
- ・ 総会、例会、理事会の全員出席を目指した運営
- ・ 会員全員との情報共有の確立
- ・ HP、SNS の更新管理と発信
- ・ 公益会計基準に則った財務管理
- ・ 近隣 LOM との合同例会の開催
- ・ ステークホルダーと協力した事業の取り組み
- ・ 徹底した委員会の年間スケジュール管理
- ・ 福井ブロック協議会への協力ならびに支援
- ・ 日本 JC が開催する事業の積極的な参加